

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192005999		
法人名	株式会社健 康倶楽部		
事業所名	あすなろの家 (1F あやめ)		
所在地	小樽市幸2丁目22番3号		
自己評価作成日	令和 5年 12月 19日	評価結果市町村受理日	令和 6年 2月 6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0192005999-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和6年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然な環境を活かし、家庭菜園を楽しむ食事の際、新鮮な野菜を提供させて頂いています。閑静な住宅街に位置し中庭には東屋がある為、気候の良い日は昼食会を行っています。町内会長様は運営推進会議の委員でもあり、と他方面で協力を下さっています。町内の資源物回収に協力させて頂いています。

当事業所は市外の郊外高台の住宅街に位置し、鉄筋コンクリート造りの地上2階、地下1階の眺望の良い丘の上に建っている2ユニットのグループホームである。1階と2階がグループホーム、地下1階は小規模多機能事業所となっている。隣接して同法人が運営するグループホーム「あすなろ」がある。敷地も広く、季節感が感じられる木々が庭に植えられ、家庭菜園の畑もあり、秋には野菜の収穫を職員が行っている。又昼食時に敷地内にある東屋で利用者によるランチ会も開催している。事業所内の共有空間の居間は南向きで明るく、窓からは多くの山々や市街地を望むことができ、季節の移り変わりなどを満喫することができる。災害時には事業所の敷地が地域の避難場所になっており、地域に密着した、質の高いサービス支援に努めている事業所である。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目: 23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内の掲示板に貼り、いつでも確認が出来るようにしています。また毎月発行しているあすなろ便りにも提示しています。	地域密着型の事業所として法人の理念を玄関や各ユニットに掲示し、職員全員で朝礼時に唱和して、支援に活かすよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により町内行事への参加は出来ませんが、資源回収への参加は行っています。	コロナ感染症の緩和に伴い、昨年、小樽祭りの子ども神輿が事業所に立ち寄り、利用者の楽しみとなっている。利用者も庭に出て、日光浴を楽しんでいる時に地域住民との会話もあり、地域との繋がりを維持するようにしている。又町内会の資源回収活動には毎年参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する研修を行っています。支援方法について等話し合いを行い活用しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により会議の開催は内部の委員で行い議事録を委員や包括に送付しておりましたが、7月より会館にて通常に再開し、町内会長様はじめ、ご家族等の意見・要望を頂いています。	運営推進会議は年6回開催しており、昨年6月までは感染症対策のため、書面会議の開催でしたが、その後は利用者家族、町内会代表、地域包括支援センター担当者も交えて、意見交換や活動報告などを行っている。その会議録を利用者家族に送付し、意見や要望を得て、介護サービスの向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ、担当の課に連絡し、相談・報告をしています。	市担当者とは事業所の状況や各種報告を対面してできるようになり、市担当者から指導や助言を得ている。感染症対策においても相談を行い、ケアサービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準における具体的な行動を正しく理解し、施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束委員会と虐待防止委員会があり、会議の結果を月1回の内部研修で話し合い、身体拘束の弊害や具体的な禁止行為、不適切な言動について正しく理解するよう心がけている。夜間は安全のため各フロア玄関の施錠を実施している。	

あすなるの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待防止について学び、伝達研修を行い、職員全員で身体拘束・虐待防止に努めています。また法人内で身体拘束・虐待防止委員会を設置し虐待を見逃す事がないよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修開催時は、参加し学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	早い段階より、主治医に身体状況を確認しながらその状況をもとに、ご家族に今後について話し合う機会を作っています。またその中で不安に思う事などの相談にも受け答えしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話などで要望をお聞きし、来訪記録に記載し職員間で共有・把握しています。	意見箱は玄関入口に設置している。法人から年1回、利用者家族にアンケート調査を行い、意見、要望などを聞いて支援の向上に努めている。又「あすなる便り」を発行し、利用者のイベント行事での楽しい様子を利用者家族に知らせしている。感染症対策の行い、玄関内部で利用者と利用者家族の面会ができるよう支援している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、フロア一会議を行い、意見を聞く機会を作っています。また、直接事務所に個別での相談事を聞いたり・個別面談も行っています。	管理者は日常勤務の中で職員との会話を重視している、年2回の個人面談を実施し、職員からの要望や意見について出しやすい環境を心がけている。母体法人の意向で、職員の資格取得や研修会への参加に取り組むなど、事業所運営の向上に努めている。職員は1年間の目標を各自で設定し、その結果について管理者に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートにて個々の努力や実績等を把握している。また、年1回ストレスチェックを実施すると共に、職員面談等で職員の希望を十分に聞き入れ各自が向上心を持って働ける職場環境を整えている。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人内研修の実施及びグループ内研修へ参加してもらい職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同法人内のグループホームと会議等で情報共有を行うと共に外部研修会への参加等でサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にコミュニケーションをとり、安心して話せる様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを理解し少しでも不安を解消する事で、信頼関係を築くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族の意見を共有し、その方に合った必要な支援を提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者には出来る事や、その方に合った手伝いなどをして頂いています。出来な事はさりげなく支援し良好な関係を作れるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にホームでの様子をお伝えし協力して共に支援していけるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類となり状況により面会は玄関に入って頂き距離を置き面会して頂いています。また、ご家族の希望で毎週電話を下さる方もおり対応しています。	利用者家族との面会回数を増やし、利用者と利用者家族との関わりも増えてきている。遠方の利用者家族に対しても「あすなろ便り」と共に利用者の近況を手紙などで知らせており、馴染みの関係が継続できるように支援している。	

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に何かを作成したり、職員が間に入り交流が出来るよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も連絡があった際は、内容に応じ必要な支援を出来る限り支援しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の好みや趣味を把握すると共に、日頃から思いを聞き入れ、職員間で共有し希望・意向の把握に努めています。	利用者との会話や日々のふれあいの中から利用者の思いや意向を把握するよう努めている。2ヶ月に一度、音楽療法の講師を招き、懐かしい昭和歌謡を職員と一緒に歌うなど心通う支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フロア内に利用者個々の情報をファイリングし、すぐ確認出来るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り時、一人一人の状況を報告し、現状把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には近況報告をし、その際に意向を伺っています。本人からもお話を伺い意向を確認しています。モニタリング・フロア会議・担当者会議で各意見を反映し、プランに反映しています。	短期3ヶ月または6ヶ月、長期1年で介護計画を見直し、利用者や利用者家族の意向を取り入れるよう支援している。日々の関わり合いやケア記録を基に職員で話し合い、介護計画を作成し、利用者家族の承認を得ている。又利用者の状況に応じて随時、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録がされています。その他にも重要な事があれば日誌に記載したり、口頭で伝えたりして情報共有し、プランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調やその時の状況に応じて柔軟にニーズを汲み取ってサービスの多機能化にできるよう取り組んでいます。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、多くは参加を控えています。可能な限り町内行事には参加させて頂き、利用者を楽しんで頂けるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医は希望の担当医となっています。異変があった際は、ご家族に連絡をし、状況説明をしたうえで受診する病院を決めています。	入居時に利用者や利用者家族からこれまでの受診状況を確認し、引き続きかかりつけ医を受診できるよう支援している。受診後の記録は同行した職員や利用者家族からの報告をもとに作成し、常に利用者の健康状態を把握している。協力医とは24時間体制で緊急時での対応もできる支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	掛かりつけ医に連絡をし、看護師に身体状況を説明。必要に応じた指示を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に入院先の担当者と連絡を取り合いながら状況を確認し、早期退院となるよう支援しています。また、出来る限り営業に回り、先方との関係づくりに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居前の面接時に終末期のホームで出来る対応について説明をしています。重度化時には再度主治医・家族と話し合い方針を決めています。	入居時に利用者及び利用者家族に重度化した場合や終末期のあり方について説明し、説明内容について書面で確認を得ている。重度化した場合は早い段階から利用者、利用者家族及び主治医と話し合いを行い、再度、意思確認を重ね、希望に沿えるよう支援している。運営指針を職員間で共有してターミナルケアをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が対応出来る様に、研修会に参加したり、応急処置のマニュアルをフロア内に置き、いつでも確認出来る様にしています。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練の他、火災や地震災害・停電を想定した訓練を年間計画に取り入れ行っています。炊き出し訓練も予定しています。	昼夜の災害を想定した避難訓練を年2回実施している。法人や隣接する事業所とは協力体制を取り、BCPマニュアルを作成し、法人の感染症対策委員会の講習に定期的に参加し、感染予防対策に取り組んでいる。停電を想定した訓練を実施している。又災害時の備蓄品も確保している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その方の性格等を把握して、自尊心やプライバシーを損なわない対応を心掛けています。	職員はウェブ会議研修を行い、常に学習を行っている。日々のケアでは言葉使いに気を付けて、特にトイレ誘導の際は耳元で声掛けをするなど、利用者の尊厳やプライバシーを守ることを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気兼ねせず希望や思いを発信できるよう働き掛け、自己決定出来るよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者一人一人の体調・気分を把握し、希望に添えるようその方のペースに合った支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好む洋服や、気候・季節に合った服装になるよう配慮しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力量に合わせて出来る事(テーブル拭き・食器すすぎ・食器拭き)などをお願いしています。また、自身の仕事と率先し行って下さっています。	献立や食材は業者に発注し、調理は職員が行っている。利用者は状況に応じて後片付けの手伝いを行い、又おはぎ作りにも挑戦している。季節食や誕生会、各フロアーのハロウィンパーティー、東屋でのランチ会などを開催し、楽しく食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事料・水分量をチェック表に記載。水分量が少ない際は、好みも物を提供し飲んで頂いています。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。自身で出来る所を磨いて頂き、不十分な所は介助しています。夕食後は洗浄剤を使用し清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、排泄パターンを把握、個々のタイミングに合わせて声掛けしトイレでの排泄を促し失敗を減らし自立に向けた支援を行っています。	利用者の排泄チェック表を活用してそれぞれのタイミングに合わせて声掛け誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄を行えるよう支援している。誘導時には自尊心を損なわないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、1日の水分量が少なくならないよう努めています。便秘の際は主治医に相談し下剤の調整をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決めさせて頂いていますが、決められた日の中で可能な限り本人の希望に添えるよう対応しています。	利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週2回の入浴支援をしている。利用者の体調により、シャワー浴、足浴、清拭での対応もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況や気分に応じ、居室やフロアにて過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の内容が確認でき把握も出来るよう、フロア内に薬の説明書をファイリングし保管しています。薬セット後は数回確認、服用前も他職員に声掛けし再確認にて頂き、薬を飲み込むまで見守りをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみなど、毎日のやりがいになっている作業を続けて頂いています。職員とコミュニケーションをとりながら喜びのある日々を過ごせる様支援しています。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外の東屋にて食事会を庭先での日光浴等を行い、外の季節を感じながら日々の暮らしを楽しんで頂けるよう支援しています。	天気の良い日はイベント行事として、敷地内にある東屋でランチ会を開催している。庭での散歩や日光浴、庭に咲く花や木々を眺めたりして外気や季節を感じながら、日々の暮らしを楽しむよう支援している。	コロナやその他の感染症が心配される中、庭でのイベント行事など色々工夫し、利用者が外気浴や日光浴ができるよう努めている。コロナ禍前の外出支援ができるようになるまでまだ時間が掛かるが、昨年、コロナの感染症上の分類が5類に引き下げられたことから徐々に外出の機会を増しや、利用者の楽しみとなるよう外出支援の取り組みに期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金所持に関し、個々の力量や本人の強い希望がある際は、ご家族と相談し金額を確認して頂いたうえで持参して頂いています。必要物品はホームで代行し購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の希望により毎週電話を下さる方がおり取り次いでいます。電話を希望された際は希望に添っています。手紙を書かれた時は、代行にて投函しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じ室温・湿度・光の調整、また定期的に換気を行っています。掲示板には春夏秋冬の装飾をし、季節感を感じて頂けるよう努めています。テレビの音量にも配慮しています。	食堂とリビングが一体となった広い共用空間は温度、湿度が適正に管理されて過ごしやすくなっている。感染症対策として一定の時間に換気を行い、消毒にも心がけている。利用者と職員が一緒に作成した飾り付けや行事の写真などが飾られており、季節感あふれる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファがあり自由に座り新聞やテレビ等を見たり、状況に応じ座る場所に誘導して過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた家具等を持って来て頂き、環境に早めに慣れ居心地良く落ち着いて過ごす事が出来るよう努めています。	使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込み、思い出の品や写真などを飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。清潔で安心できる居室となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の分かる事・出来る事を把握し、その方向に合った環境整備に努めています。少しでも自立した生活が送れるよう支援しています。		